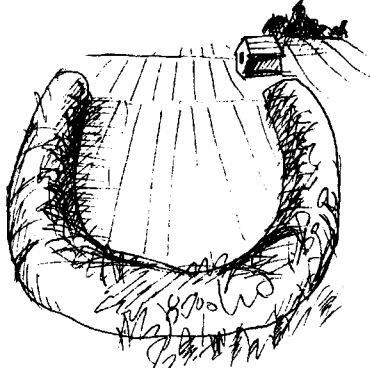
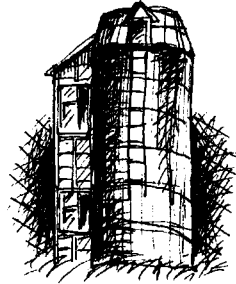


12日



土塁 この他にもあちこちに  
背丈ほどの。もと丸く  
つながっていたらしい。  
城跡ということだ。今は  
田になっている。

13日



S31年産 新栄村建設  
特別助成事業とあつた  
篠原のサイロ

## 佐 渡 島 巡 検 ( 式 教 官 )

昭和45年7月3日～7日

昭和45年7月3日……東京 → 佐渡小木

7月4日……小木半島, 江積

7月5日……国府川砂丘, 二見半島, 尖閣湾, 平根崎

7月6日……関, 大佐渡北部 → 両津弾崎(佐渡北端)

7月7日……ドンデン山, 解散

4泊5日の日程で行なわれた佐渡島への巡検は、式先生、林原さんを混えて総勢7人という小ぢんまりしたものであった。行く先々で、佐渡高校の校長先生など、いろいろな方の歓迎をうけ、その方々のお世話なしには、交通機関などにおいて、このようなコースの巡検は成立しなかったと、一同感謝している。

小木半島では、琴浦の見事な海岸段丘、海蝕洞、横井戸などを、また半島先端の江積では、枕状熔岩と、小木地震による隆起波蝕台を見た。佐渡島の地形は、主に、大佐渡と小佐渡の山地、中央

部の国中平野，それに島をとりまく海岸段丘よりなっているが，海岸段丘は，小木半島と二見半島，それに大佐渡の周囲に発達していて，小佐渡の南東部にはみられない。小木は，ほとんど半島全部にはみられない。小木は，ほとんど半島全部が段丘からなっていて，最高位，高位，中位，下位の四段が，二見には，最高位，中位，下位の三段の段丘がみとめられる。どちらの段丘も海蝕洞にたまった水や，わき水，横井戸，ため池などを利用して，見事に水田化されていた。広く平坦に広がる隆起波蝕台の上には，それを利用したのり畑がみられ，自然の中にある人間の生活というものを再認識させられたように感じる。

真野湾にのぞむ国府川下流には砂丘が発達しているが，これは二見半島の沢根層と呼ばれる砂層と，北西季節風と真野湾の沿岸流が生成の原因らしい。国府川下流の八幡砂丘から，二見半島を経て，相川町の佐渡金山へ寄り，外海府海岸を北上して，尖閣湾では潤とよばれる層理に沿う侵蝕やまた節理に沿う海蝕洞を見学したが，おりからの台風の影響で強い風にふきまくられ，記念写真どころではなかったようだ。

尖閣湾からは，さらに北上して平根崎のケスタや，おう穴群を見，その日は寒戸岬に近い関に宿泊したが，台風のために早々と停電になったり，ガラスが割れたり，翌日の出発が遅れたり，少々大変な一夜であった。関では，断層崖と鏡岩（断層鏡肌面）とそれにとまなり地すべり地帯を見，さらに北部の岩谷口では海蝕洞堀を利用した縄文期の遺跡をみたりして，大佐渡の北端へと進んだ。

今回巡検は，主に佐渡島の自然を見るためのものであったが，開拓や集落，それに工業としての羽茂の味噌や，竹細工，漁業，農業，歴史的事項などについても見聞でき，様々なハプニングももなって非常に楽しい巡検であったと思う。万博の影響で佐渡への観光客が少なかったせいもあって静かだったし，また梅雨もはっきりしない佐渡では，天候にもめぐまれていたと言ってよいだろう。

（4年 古屋）